

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
45.(社)日本産婦人科医会	14.15.16.18.19.20.21.	<p>14 妊産婦死亡の防止</p> <p>1. 全国妊産婦死亡実態調査を継続して実施した。</p> <p>15 満足できる妊娠・出産への支援</p> <p>1. 「健やか親子21推進協議会」・課題2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」の幹事団体として運動推進を協議した。</p> <p>2. 出生前小児保健指導（プレネイタル・ビジット）事業の推進</p> <p>出生前小児保健指導（プレネイタル・ビジット）事業について、都道府県支部での実施状況、指導要項等について検討を行った。</p> <p>3. 新生児聴覚スクリーニング検査について</p> <p>厚生労働科学研究「全出生児を対象とした新生児聴覚スクリーニングの有効な方法及びフォローアップ、家庭支援に関する研究」班の協力により、新生児聴覚スクリーニングのfalse negativeについて、日本産婦人科医会報、ホームページに掲載し、新生児聴覚検査の精度管理および意義について広報を行った。</p> <p>4. 平成13年度からの継続事業として行っている厚生労働省雇用均等・児童家庭局長から委託された、労働者数50名未満の事業所で働く事業主および女性労働者を対象とした母性健康管理に関する電話相談事業を実施した。</p> <p>5. 下記の講演会に出席し講演等を行った。</p> <p>1) 第24回これからの母子保健を考えるシンポジウム「育児を支える」を後援。 (平成15年12月5日・東京都児童会館)</p> <p>2) 平成15年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究推進事業公開シンポジウム「こどもが健やかに育つために～手をつなぐ地域と家庭～」</p>	<p>14 妊産婦死亡の防止</p> <p>1. 全国妊産婦死亡実態調査を実施し、経年的な傾向の変化を検討する。さらに問題点を抽出し、妊産婦死亡率の減少に向けた啓発活動を行う。</p> <p>15 満足できる妊娠・出産への支援</p> <p>1. すこやか親子21推進協議会・課題2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」の幹事団体として運動を推進する。</p> <p>2. 出生前小児保健指導（プレネイタル・ビジット）事業の推進</p> <p>各支部での活動状況の実態を調査し、有効な活動方法を継続して検討する。</p> <p>また、平成16年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」の一環として、調査を継続する。</p> <p>3. 新生児聴覚スクリーニング検査の正しい普及に努め、全国的なスクリーニングの確立に努める。</p> <p>4. 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長から委託された、労働者数50名未満の事業所で働く事業主および女性労働者を対象とした母性健康管理に関する電話相談事業を実施する。</p> <p>16 産後うつ病を含む心のケアの促進</p> <p>1. 昨年度実施した「妊娠・育児に関するカウンセリング機関」についての全国調査を集計。home pageに掲載する予定。</p> <p>18 母性健康管理指導事項連絡カードの普及・啓発</p> <p>1. 当会会員を通じ、継続して啓発に努める。(本会home pageに掲載。)</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
45. (社)日本産婦人科医会		<p>演題「分娩の快適性確保のために忘れてはならないこと；日本産婦人科医会の役割」 シンポジスト:田中政信常務理事(平成16年2月24日・労働スクエア東京)</p> <p>16 産後うつ病を含む心のケアの促進 1. 妊婦・産褥婦のメンタルケアの対応可能な機関について、「妊娠・育児に関するカウンセリング機関全国調査」を実施し、情報を収集した。</p> <p>18 母性健康管理指導事項連絡カードの普及・啓発 1. 「母性健康管理指導事項連絡カード」について、本会home pageに掲載し周知をはかるとともに、全会員に広報用ポスターを配付し普及の啓発に努めた。</p> <p>19 周産期医療ネットワークの整備と機能の向上 1. 平成15年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」の中で分担研究として、産科リスクを軽減する体制について（産科オープンシステムについて）研究を実施した。 2. 総合周産期母子医療センター設置の推進のため、現在設置数の把握し、施設基準の改正を提言した。</p> <p>20 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上 1. 平成15年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」の中で分担研究として、産科リスクを軽減する体制について（産科オープンシステムについて）研究を実施した。 21 不妊専門相談センターの整備と機能の向上 1. 不妊専門相談センター設置の推進のため、現在設置数の把握。</p>	<p>19 周産期医療ネットワークの整備と機能の向上 1. 平成16年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」に関連して、(セミ)オープンシステムの充実に向けて、調査・研究を行う。 2. 全国的な新生児聴覚スクリーニング検査について、継続して検討を行う。 3. NICUの実態調査について 近年の生殖補助医療の進歩による多胎児の増加や長期入院児の増加などによるNICUベッド回転率の低下と、NICU入院児をかかえる家族の育児負担、精神的負担、経済的負担が社会的問題化していることにより、その実態調査を行った。本年度は、その解析を行い新生児医療システムについて検討する。 4. 総合周産期母子医療センター設置の推進。地域毎の充足率の把握に努める。 5. 早産防止に関する研究 周産期の児の予後を改善する目的で、早産予防に関する多施設前向き研究を開始し児の周産期予後の改善点の把握に努める。 (会長は当医会の岡井常務理事、世話人として朝倉、田中両常務理事が参加。)</p>
45. (社)日本産婦人科医会			<p>20 産婦人科医・助産師の確保と養成の推進・資質の向上 1. 平成16年度厚生労働科学研究子ども家庭総合研究事業「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」に関連して、(セミ)オープンシステムの実態調査・研究を行う。 21 不妊専門相談センターの整備と機能の向上 1. 不妊専門相談センター設置の推進のため、現在設置数の把握に努める。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
46. 日本母乳の会	15.16.母子同室・母乳育児の推進、	15.満足できる妊娠出産への支援、16.産後うつ病を含む心のケアの促進、 母子同室・母乳育児の推進 ・第12回母乳育児シンポジウムの開催 目的：母子同室・母乳育児の推進のために広く深く理解をしていただく 参加人数：1500名(産科医、小児科医、助産師、看護師、保健師、母親、父親等) 開催数、方法：年1回、京都市、京都国際会議場 効果：母乳育児の広がりを見せている。 シンポジウム実行委員会の開催 目的：シンポジウムのテーマ、講演者、内容等、論議。 参加人数：40—50名、月1回開催 効果：多くの方と論議をしながら、シンポジウムを作り上げていくので、関西地区の母乳育児が広がりをを見せている。 北京都母乳の会の発足 ・ワークショップの開催 目的：母乳育児の理解を深めるために、医療者の少人数によるワークショップ 参加人数：約80名 開催数、方法：年2回、10月福島県で開催 効果：東北地区の母乳育児の広がり、山形県母乳育児を応援する会の発足	・第13回母乳育児シンポジウムの開催 目的：母子同室・母乳育児の推進のために広く深く理解をしていただく 参加人数：1500名(産科医、小児科医、助産師、看護師、保健師、母親、父親等) 開催数、方法：年1回、福岡市、ホテルシーホーク&リゾート 効果：母乳育児の広がりを見せている。 ・九州シンポジウム実行委員会の開催 目的：シンポジウムのテーマ、講演者、内容等、論議。 参加人数：40—50名、月1回開催 効果：多くの方と論議をしながら、シンポジウムを作り上げていくので、関西地区の母乳育児が広がりをを見せていく。 ・ワークショップの開催 目的：母乳育児の理解を深めるために、医療者の少人数によるワークショップ 参加人数：約80名 開催数、方法：年1回、10月三重県で開催 効果：東北地区の母乳育児の広がり、山形県母乳育児を応援する会の発足 ・「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」認定業務 目的：WHO・ユニセフの母乳育児推進としてのBFH認定。 効果：母乳育児推進の地域的な中心ができる

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
46. 日本母乳の会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」認定業務</li> <li>目的：WHO・ユニセフの母乳育児推進としてのBFH認定。</li> <li>森下産婦人科医院、横浜市立大学医学部附属総合市民医療センター、</li> <li>あわの産婦人科医院、熊本市立熊本市民病院、総合病院北見赤十字病院の5施設の認定申請。</li> <li>効果：母乳育児推進の地域的な中心ができる</li> <li>・ 全国「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」連絡会議の開催</li> <li>目的：BFH認定の30施設の現状報告、取り組み。</li> <li>参加人数：約80名</li> <li>効果：お互いの情報交換ができ、地域に広がりをもたらしている</li> <li>・ 各地の母乳の会、および、母親グループへの講師派遣や支援</li> <li>目的：地域の母乳の会、母親たちへの支援</li> <li>東京、大阪、兵庫、岐阜、愛知、島根、かながわ、宮城、岩手、山形、千葉など</li> <li>・ BFH申請希望病院への講演・研修会</li> <li>山形、宮城、兵庫、福岡、青森</li> <li>目的：BFH認定のための院内スタッフの研修</li> <li>効果：BFH認定申請の増加</li> <li>・ 第10回母乳育児シンポジウム記録集発行、販売</li> <li>目的：シンポジウムの記録、および広報活動の一環として</li> <li>2000部作成、会員配布、各地の母乳の会、関連学会において販売</li> <li>効果：シンポジウム参加者の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各地の母乳の会、および、母親グループへの講師派遣や支援</li> <li>目的：地域の母乳の会、母親たちへの支援</li> <li>・ BFH申請希望病院への講演・研修会</li> <li>目的：BFH認定のための院内スタッフの研修</li> <li>効果：BFH認定申請の増加</li> <li>・ 第11回、第12母乳育児シンポジウム記録集発行、販売</li> <li>目的：シンポジウムの記録、および広報活動の一環として</li> <li>2000部作成、会員配布、各地の母乳の会、関連学会において販売</li> <li>効果：シンポジウム参加者の増加</li> <li>・ WHO「10カ条のエビデンス」翻訳、発行</li> <li>目的：母乳育児成功のための10カ条を実践し、BFH認定のために、医療者のためのガイドブックの発行</li> <li>効果：BFH病院の増加</li> </ul>
46. 日本母乳の会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小冊子「離乳食」の増刷</li> <li>目的：母乳育児継続のために離乳食への医療者、母親への理解を深める</li> <li>効果：</li> <li>・ 母親グループの講演会への支援</li> <li>目的：母親たちへの母乳育児支援</li> <li>効果：母親たちの母乳育児への教育</li> <li>小児科医の母乳育児アンケート調査、全国保健センターにおける母乳育児意識のアンケート調査—子ども家庭総合研究として</li> <li>目的：小児科医、保健センターに対する母乳育児意識調査</li> </ul>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
47. (社)日本薬剤師会	15	<p>15. 満足できる妊娠・出産への支援</p> <p>①薬剤師に対する「妊娠と薬」に関する基礎知識の普及          目的：妊婦・授乳婦より質問・相談を受ける立場にある薬局・病院の薬剤師に対して「妊娠と薬」に関する基礎知識を改めて普及させるため、会員（約10万）を対象に発行している日本薬剤師会雑誌（平成15年12月号）に「妊娠と薬」に関するQ &amp; A形式の論文を掲載。          効果：妊婦・授乳婦から相談を受ける薬剤師の「妊娠と薬」に関する基礎知識の習得・充実</p>	<p>15. 満足できる妊娠・出産への支援</p> <p>①「妊娠と薬」、「授乳と薬」(仮称)などパンフレットの作成・配布（新規）          目的：妊娠前、妊娠中、授乳中の女性や子供を持つ親に対して、薬の安全な使用方法、薬の安全な服用方法、薬についての疑問・不安、誤飲防止、たばこが胎児に及ぼす影響、かかりつけ薬局の重要性等について情報提供を行うためのパンフレットを作成し、薬局等を通じて広く配布する。</p>
49. (財)母子衛生研究会		<p>「健やか親子21」課題1～4に関すること全般</p> <p>* 「母子保健指導者研修会」の実施          目的：母子保健に関する正しく且つ新しい情報の伝達。          参加人数（対象者）：10,500名（行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者）          開催数、方法等：46回（厚生労働省、開催地区自治体、関係団体等の後援にて開催）          全国都道府県で実施          効果、その他：妊婦や育児中の母親と直接接する関係者に最新情報を提供することで、育児不安や虐待等母子保健が直面している問題の一助となることが期待される。          * 「これからの母子保健を考えるシンポジウム」の実施          目的：母子保健の懸念されている事柄について、問題提起とその対応について考える。          参加人数（対象者）：350名（行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者）          開催数、方法等：1回（厚生労働省、関係団体等の後援にて開催）          東京都で実施          効果、その他：各方面の専門家の意見を聞くことで、問題がより明白となり、多角的に問題に取り組めることが期待される。</p>	<p>「健やか親子21」課題1～4に関すること全般</p> <p>* 「母子保健指導者研修会」の実施          参加人数：10,500名（行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者）を予定。          開催数、方法等：47回（全国都道府県で実施予定）          * 「これからの母子保健を考えるシンポジウム」の実施          参加人数：350名（行政担当者、保健師、助産師、栄養士、保育士、その他母子保健・児童福祉関係者）を予定          開催数、方法等：1回（東京都で実施予定）</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
49. (財)母子衛生研究会	14.15.16.18.	14～16、18等 妊娠・出産・育児全般に関すること *母子保健教室等を実施 目的：妊娠・出産・育児についての基本的な知識、情報を伝え快適で充実した妊娠・出産・育児期を過ごす。 参加人数：15,000名(妊婦) 開催数：77回(全国5地区) 効果、その他：妊娠中の生活管理、行政サービスなどについて専門家の指導・助言が得られる。 *パンフレットの作成・配布 目的：妊娠・出産・育児についての基本的な知識、情報を得ることにより、快適で充実した妊娠・出産・育児期を過ごすことをねらいとした母子健康手帳の副読本「赤ちゃんーそのしあわせのために」を作成し、配布する 配布対象者：関係機関(地方自治体等)を通じて妊娠届出者に配布 配布部数：1,500,000部 効果、その他：母子健康手帳の活用がよりいっそうはかられ、妊娠中や育児期の母子の生活管理、行政サービスなどについての基本的な知識が得られる。	14、15、16、18等 妊娠・出産・育児全般に関すること *母子保健教室等を継続実施 参加人数：16,000名(妊婦)程度を予定 開催数：81回(全国5地区)程度を予定 *パンフレットの作成・配布(継続実施) 母子健康手帳副読本「赤ちゃんーそのしあわせのために」
59. 性と健康を考える女性専門家の会	15	15.満足できる妊娠・出産への支援 2) 出版物の発行(北海道支部) 女性が生き生き暮らしていくために『ママになるとき』 内容 a. 自分らしいお産を考えよう b. 無痛分娩 c. ママとベビーのための検診 発行 平成15年7月(頒価500円) 1)講演会を実施(北海道支部)	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
61. 日本糖尿病・妊娠学会	15	<p>満足できる妊娠・出産への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊娠糖尿病に関するスクリーニングと妊娠糖尿病にかかった人の分娩後の糖尿病への進展率のフォローアップスタディ。</li> <li>・ 糖尿病妊婦から生まれた奇形児を少なくするため計画妊娠を励行させる。</li> <li>・ 特に我が国では若年者の糖尿病でも欧米と異なり2型糖尿病が多く、見逃されることが多いので、妊娠前から糖代謝異常のチェックを行う必要性を知ってもらう努力を行う。</li> </ul> <p>3) 学術集会 2003年10月24日・25日開催、新潟市民プラザ 約400名参加</p> <p>概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 特別講演：「糖尿病性腎症の予防と治療戦略」（下条文武）</li> <li>2) 招聘講演：「Obesity and diabetes in the offspring of women with diabetes during pregnancy」（David J Pettitt）</li> <li>3) シンポジウム：「糖尿病をもった女性の計画妊娠ー健やかな妊娠・出産に向けて」（座長：中林正雄、岩本安彦）</li> <li>4) ランチオンセミナー：「糖尿病と性差」（後藤由夫）</li> </ol> <p>◎その他 学会誌「糖尿病と妊娠」3巻を発行。 日本糖尿病・妊娠学会のホームページを随時更新する。 (<a href="http://www.dm-net.co.jp/jsdp/main.html">http://www.dm-net.co.jp/jsdp/main.html</a>)</p>	<p>満足できる妊娠・出産への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊娠糖尿病に関するスクリーニングと妊娠糖尿病にかかった人の分娩後の糖尿病への進展率のフォローアップスタディ。</li> <li>・ 糖尿病妊婦から生まれた奇形児を少なくするため計画妊娠を励行させる。</li> <li>・ 特に我が国では若年者の糖尿病でも欧米と異なり2型糖尿病が多く、見逃されることが多いので、妊娠前から糖代謝異常のチェックを行う必要性を知ってもらう努力を行う。</li> </ul> <p>4) 学術集会 2004年12月10日・11日開催、国立京都国際会館 約400名参加予定</p> <p>概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 特別講演：「肥満2型糖尿病の栄養治療ー栄養素による遺伝子発現調節の面からー」（柏木厚典）</li> <li>2) 招聘講演：「Mechanism of diabetic embryopathy」（Ulf J Eriksson）</li> <li>3) 教育講演：「遺伝子異常による糖尿病と臓器形成不全」（武田 純）「胎児発育および発達に関する最近の話題」（秦 利之）</li> <li>5) シンポジウム：「肥満者の妊娠、分娩と長期予後」</li> <li>6) ランチオンセミナー：「糖尿病治療の展望」（清野裕）「肥満治療の最近の話題」（吉田俊秀）</li> </ol> <p>◎その他 学会誌「糖尿病と妊娠」4巻を発行予定。 日本糖尿病・妊娠学会のホームページを随時更新する。 (<a href="http://www.dm-net.co.jp/jsdp/main.html">http://www.dm-net.co.jp/jsdp/main.html</a>)</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
64. (社団) 日本女医会	20	<p>産婦人科医・助産士の確保と養成の推進・資質の向上                  * 「十代の性と健康」指導者養成講座を五回開催（第四回から第八回）                  目的：十代の妊娠中絶率の増加に伴い、増加している性感染症の恐ろしさを教え、正しい科学的知識・予防法等を徹底する。新しい手法の紹介し、地域におけるネットワーク作りにも大いに貢献した。                  参加人数（対象者）：                  第四回 132名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）                  第五回 112名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）                  第六回 198名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）                  第七回 122名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）                  第八回 226名（医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他）                  開催数 5回                  方法等 「性と健康を考える女性専門家の会」の協力得て、さらに各県、各県医師会、各県教育委員会等の後援を得、専門性の高い講師を選定し、講演内容も受講者より極めて好評であった。                  * 性教育指導の専門指導者の養成とネットワーク作り</p>	<p>産婦人科医・助産士の確保と養成の推進・資質の向上                  * 「十代の性と健康」指導者養成講座を東京近郊2ヶ所で開催する。                  * 地域における性教育の充実と強化およびネットワーク作り。                  * 会誌に「健やか親子21」について、記事を掲載する。</p>
68. 日本臨床心理士会	15	<p>15 満足で妊娠、出産への支援                  平成15年11月3日 いいお産プロジェクト（日本教育会館にて）参加                  【パンフレット等の配布】                  日本臨床心理士会の案内、                  東京臨床心理士会子ども相談室の案内、                  子育て支援に関する臨床心理士会の情報の提供                  関連する臨床心理士会の冊子、書籍紹介                  【対象者】                  イベント参加の妊婦、乳幼児の母およびその家族、                  パラメディカルスタッフ                  【部数】延べ数800部                  【効果】出産後に起こりうる育児不安、困難に出会ったときの相談経路を予備知識として提供することが出来た。</p>	



健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
76. 日本不妊看護学会	20.21.22	20・22 上半期の活動：日本不妊看護ネットワークとしての活動 1. 前身である「日本不妊看護ネットワーク」としての活動 1) 本不妊看護学会設立のための発起人会の開催および準備 本学会設立のための具体的準備をおこなうために、発起人会を2003年5月24に第1回の会議を開催し、以後学会設立に向けて準備を行った。 2) 不妊看護に関する勉強会(事例検討会)の開催 第11回 4月19日 聖路加看護大学 長期の不妊治療後に双胎を妊娠した出産・育児への看護 第12回 8月30日 名古屋市立大学 不妊治療後に妊娠・出産した女性への精神的看護 3) ニュースレターの発行 No.10 6月20日、No.11 9月21日 下半期の活動：日本不妊看護学会としての活動 1. 設立総会および記念講演会・シンポジウムの開催(2003年10月4日) 1) 設立総会の開催 不妊看護の実践家・教育者・研究者の交流を促進し、学術的發展に寄与することにより、個人及び家族の生涯にわたる健康と福祉に貢献することを目的とした本学会を設立し、総会を開催した。	20・22 1. 第2回日本不妊看護学会学術集会の開催 テーマ： 不妊とカップルの性を考える 日 時： 平成16年9月5日(日)9:00-17:00 会 場： 聖路加看護大学(アリスセントジョンメモリアルホール) 東京都中央区明石町10-1 会長講演：不妊とカップルの性を考える 講演者 浜崎京子(中央クリニック) 座 長 森 恵美(千葉大学) シンポジウム：生殖・性に揺れるカップルの傍らに いるということ 講演者 川野雅資(三重県立看護大学) -不妊カップルのメンタルヘルス- 久慈直昭(慶應義塾大学) -不妊カップルの性-男性が生殖・生殖機能に問題を抱えた時- 森 明子(聖路加看護大学) -不妊カップルが二人の生・生殖を大切に する性への支援- 座 長 福井トシ子(杏林大学付属病院) 清水きよみ(東京医科歯科大学)

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
76. 日本不妊看護学会		<p>2) 記念講演：「患者ケアに果たす不妊専門看護師 (fertility nurse)」                  座長：森 明子 (聖路加看護大学)                  講師：Debbie Barber 氏                  (Chair of Fertility Nurse Group, Royal College of Nursing, UK                  Lecturer in Specialist Clinical Practice ,Oxford Fertility Unit)</p> <p>3) シンポジウム：「不妊に悩むカップルに寄り添う看護をおこなうためには」                  シンポジスト：実践者の立場から 福田貴美子 (蔵本ウィメンズクリニック)                  研究者の立場から 野澤美江子 (兵庫県立看護大学)                  行政の立場から 三枝きよみ (厚生労働省)                  臨床医の立場から 荒木重雄 (国際医療技術研究所)                  参加予定者：100名程度                  開催場所：聖路加看護大学</p> <p>2. 学会誌の発行                  第1回学術集会の記念講演録、シンポジストの寄稿、設立総会報告等からなる第1巻第1号の学会誌の発刊準備を実施した。</p> <p>3. 不妊看護に関する勉強会(事例検討会)の開催                  1月17日 神戸中央市民病院(神戸)                  2月22日 蔵本ウィメンズクリニック(福岡)</p> <p>4. ニュースレターの発行                  2003年12月                  2004年3月</p>	<p>2. 実践不妊看護セミナーの開催                  第2回学術集会の前日に、聖路加看護大学21世紀COEプログラムの共催で、以下の内容のセミナーを開催する。                  日時：平成16年9月4日(土)9:00-17:00                  会場：聖路加看護大学 東京都中央区明石町10-1                  内容：不妊治療の開始から終結までの診断や治療、ケアの実際について講演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師の立場から</li> <li>・ 看護師の立場から</li> <li>・ エンブリオロジストの立場から</li> <li>・ 臨床心理士の立場から</li> <li>・ 患者の立場から</li> </ul> <p>その後、グループディスカッションなどの予定                  ※企画の段階のため当日のプログラムは若干異なることもご了承下さい</p> <p>3. 不妊看護に関する勉強会(事例検討会)の開催                  平成16年4月 名古屋 (中京・東海)、                  6月 東京                  以後、本年度は5-6回開催の予定。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）  
 -妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての15年度の取り組み	15年度の取り組み実績	16年度の取り組み行動計画
76. 日本不妊看護学会		21 1. 看護ケア提供者のための相談業務の開始準備 臨床で不妊ケアにあたっている会員のために、看護を提供していく上で問題解決の方法を共に考えるための相談窓口を設置する。2004年5月から開始できるよう準備を進めた。	4. ニュースレターの発行 年4回、ニュースレターの3号から6号を6,9,12,2月に発行の予定をしている。 3号：今年度の学会や推薦図書を取り組み、学習会報告、 学術集会のアナウンス、理事会報告など 4号：コンサルテーションについて、学術集会の報告、理事会報告など。 5号で不妊の経費補助の制度導入後の実態や制度について 6号で学習会の報告、次年度の学術集会のアナウンス 5. 学会誌の発行 前年度に準備を進めていた、第1巻1号の学会誌の発行 21 6. 看護ケア提供者のための相談業務（コンサルテーション）の開始